

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2009年1月)  
 ~13年ぶりの経常赤字に~

発表日2009年3月9日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 小杉 晃子  
 TEL : 03-5221-4548

		原数値 経常収支						季調値 経常収支					
		貿易・サービス収支				所得収支		貿易・サービス収支				所得収支	
		前年比	前年比	貿易収支		サービス 収支	前年比	前期比	前期比	貿易収支		サービス 収支	前期比
				前年比	前年差					前年比	前期比		
07	7月	18515	4.3	▲ 30.7	▲ 19.4	▲ 155	24.6	19929	0.9	3.3	8.3	▲ 523	1.2
	8月	20811	42.1	316.2	180.1	▲ 435	7.3	21539	8.1	32.3	27.9	▲ 249	▲ 8.7
	9月	29259	42.5	77.1	59.9	378	16.0	23574	9.4	▲ 1.5	▲ 10.4	1188	20.6
	10月	22065	44.2	97.6	50.4	385	21.8	25673	8.9	11.3	13.5	▲ 391	3.9
	11月	17058	▲ 2.3	▲ 16.8	▲ 12.1	▲ 343	15.2	19965	▲ 22.2	▲ 26.3	▲ 17.2	▲ 780	▲ 16.3
	12月	15891	▲ 10.8	▲ 33.0	▲ 18.2	▲ 1164	19.4	17960	▲ 10.0	▲ 54.0	▲ 38.5	▲ 402	22.1
08	1月	11637	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	18058	0.5	54.3	24.7	469	▲ 13.1
	2月	25142	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	15546	▲ 13.9	▲ 54.8	▲ 39.3	▲ 28	4.7
	3月	29024	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	18523	19.1	70.2	35.9	95	3.8
	4月	13859	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	16341	▲ 11.8	3.7	▲ 9.9	859	▲ 12.6
	5月	19804	▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.5	18940	15.9	40.1	26.8	267	3.4
	6月	4716	▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	14168	▲ 25.2	赤字	▲ 63.4	▲ 981	11.2
	7月	15318	▲ 17.3	▲ 93.5	▲ 69.8	1133	9.6	15315	8.1	-	59.4	739	▲ 7.4
	8月	9888	▲ 52.5	赤字	赤字	1004	▲ 5.1	9257	▲ 39.6	赤字	赤字	93	▲ 6.0
	9月	14979	▲ 48.8	▲ 94.0	▲ 86.0	92	4.7	13441	45.2	赤字	-	▲ 315	9.1
	10月	9605	▲ 56.5	赤字	▲ 87.2	122	▲ 16.3	12056	▲ 10.3	赤字	-	▲ 85	▲ 7.8
	11月	4991	▲ 70.7	赤字	赤字	▲ 588	▲ 15.5	5384	▲ 55.3	赤字	-	▲ 43	▲ 5.2
	12月	1254	▲ 92.1	赤字	赤字	▲ 21	▲ 27.8	5570	3.5	赤字	-	▲ 1471	▲ 13.5
09	1月	▲ 1728	赤字	赤字	赤字	▲ 42	▲ 31.5	2580	▲ 53.7	赤字	-	925	▲ 6.0

(出所) 財務省「国際収支状況」

## ○1月の経常収支は赤字へ転化

1月の経常収支は▲1,728億円(原数値)と、先月の黒字から赤字に転落した。貿易収支をみると、輸入は国内の需要低迷や原材料価格の下落により前月からマイナス幅が拡大したものの、世界経済の悪化により輸出が▲46.3%と輸入(同▲31.7%)以上に減少したことから、貿易収支は3ヶ月連続の赤字となった。所得収支については「証券投資収益」「直接投資収益」の黒字幅が縮小し、全体として黒字幅が縮小した。これらを主因として、経常収支は1996年以来の赤字となり、赤字額は1985年以降、最大となった。

## ○貿易収支、所得収支の悪化は続く

貿易収支は▲8,444億円と3ヶ月連続の赤字となり、1985年以降、最大の赤字額を更新した。輸入は、原油の価格下落に加え生産調整の本格化などから、前年比▲31.7%(前月同▲21.2%)と、前月から減少幅が拡大したが、輸出が前年比▲46.3%(前月同▲35.1%)と輸入の減少幅を上回った結果、貿易赤字幅は拡大した。

サービス収支は▲2,558億円(前年比+1.7%)と、前月に続き「旅行」の赤字幅は縮小しているものの、「輸送」の赤字幅が拡大したことから、全体として赤字幅は拡大した。

所得収支の黒字額は、9,924億円(前年比▲31.5%)と黒字幅が大きく縮小した。「直接投資収益」に関しては、日本企業の海外法人の収益悪化を背景に、「再投資収益」などが減少し、「証券投資収益」においては、円高の進行や海外金利の低下などから、債券利子の受取額が減少した。

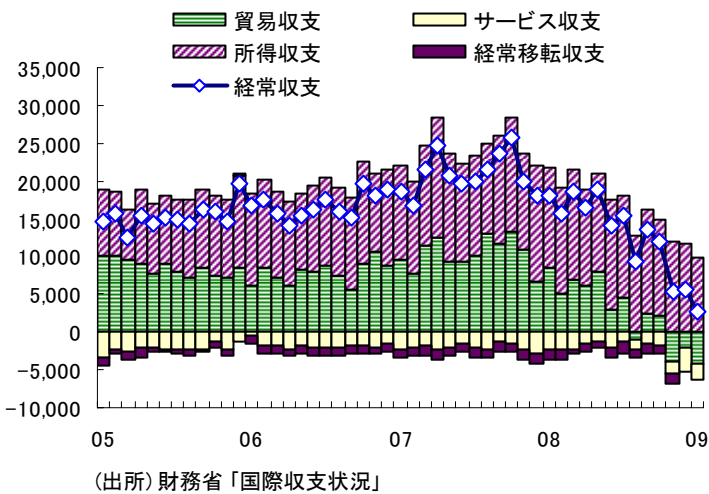
結果として、世界同時不況による輸出の記録的な落ち込みなどから、貿易赤字幅が大幅に拡大したことが、経常赤字につながったといえよう。

### ○先行き経常収支の赤字が続く可能性も

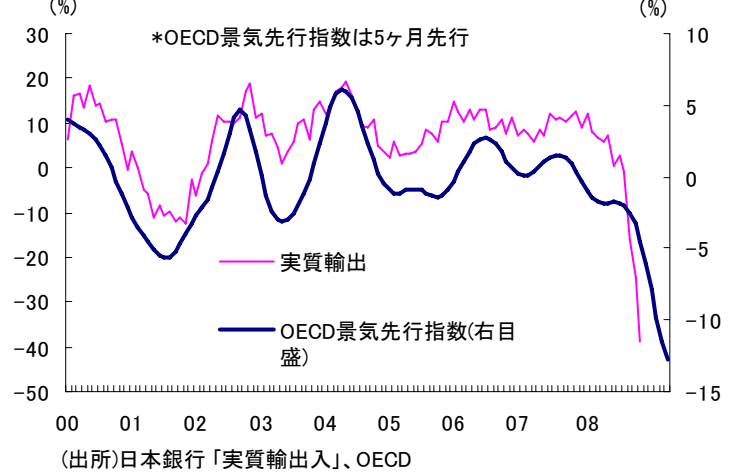
経常収支の先行きを展望すると、まず所得収支については海外子会社の収益悪化、円高の持続などから今後も黒字幅の縮小は継続するものと考えられる。

次に、貿易収支は足元3ヶ月連続の赤字となっているが、今後も赤字が継続する可能性が高い。たしかに、輸入は国内最終需要の不振や在庫調整に伴う減産傾向の強まりから、このところ減少傾向にある。だが、輸出の減少ペースは輸入のそれを大きく上回っており、輸出の先行指標とされるOECD景気先行指数の結果をみても、依然として悪化が続いている状況に変わりはない。貿易統計によると、2月の上中旬の輸出は前年比▲46.5%となっており、前月(同▲46.1%)に引き続き激減している。世界的な景気後退が続く限り、今後も当面、貿易収支の改善は期待し難い。各国で景気回復に向けた財政、金融政策が実施されているものの、具体的な効果は未だ見出し難い。先行きについても、貿易収支の悪化を背景に経常赤字となる可能性が懸念されよう。

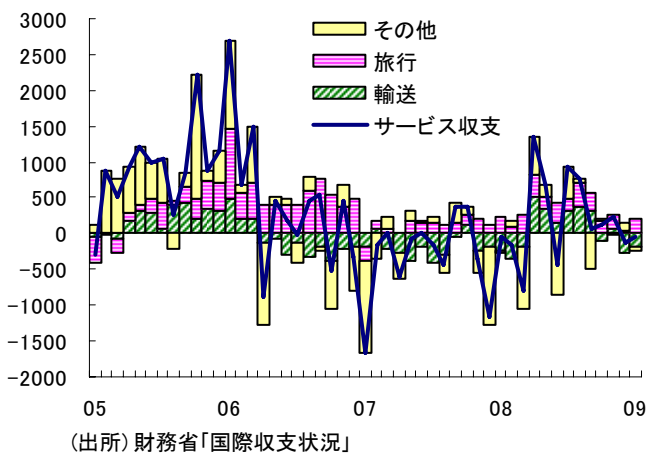
経常収支(季調値)



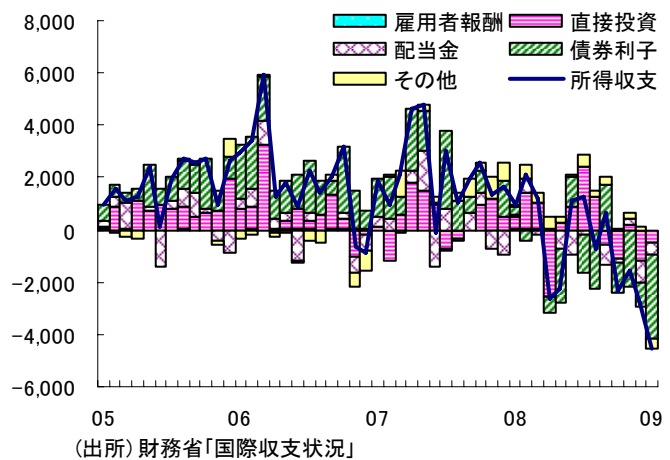
実質輸出とOECD景気先行指数(前年比)



サービス収支前年差



所得収支前年差



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。